



平成 20 年 11 月 11 日

各 位

日本出版貿易株式会社
代表取締役社長 関口晴生
(JASDAQ・コード8072)

問合せ先

取締役事業管理部本部長 天内健一
電話番号 03-3292-3751

平成 21 年 3 月期 (連結・個別) 第 2 四半期累計期間の
業績予想との差異に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、平成 20 年 8 月 13 日に公表いたしました平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想および平成 20 年 5 月 15 日の決算発表時に公表しました平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間の個別業績予想について下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の差異 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	3,780	5	△20	△13	△2円17銭
今回修正予想(B)	3,519	△26	△43	△8	△1円48銭
増減額(B-A)	△261	△31	△23	5	—
増減率	△6.9%	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月第2四半期)	3,934	25	0	12	2円05銭

2. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の差異 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	3,625	1	△23	△13	△2円17銭
今回修正予想(B)	3,417	△35	△52	△17	△2円92銭
増減額(B-A)	△208	△36	△29	△4	—
増減率	△5.7%	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月第2四半期)	3,832	7	△17	7	1円25銭

3. 理由

個別における売上高につきましては予想を下回る予定です。この要因は輸入音楽関連ソフトが音楽業界の不況により低調であったことに加え、サブプライムローン問題によるアメリカ経済をはじめとした世界経済の減速により海外向売上が低調に推移したためであります。営業利益におきましては、売上高の減少と、原油高騰による運送コストの増加、同業他社の廃業による撤退を受けて取り扱いを開始した洋雑誌の先行投資等によりマイナスになる予定です。また経常利益におきましては4月から8月迄の円安による為替差益が9百万円あったものの、先に述べた要因を補うことができずマイナスになる予定です。当期純利益におきましては貸倒引当金戻入額の特別利益を計上したものの予想を若干下回る予定です。

連結におきましては、海外子会社の業績が小規模ながら堅調に推移いたしました。売上高におきましてはアメリカの子会社が予想を下回りましたが営業利益、経常利益、当期純利益は、概ね計画どおり推移いたしました。しかしながら、連結に占める個別の割合が大きいため当期純利益以外は予想を下回る予定です。

通期業績予想につきましては、世界経済が減速するなか非常に厳しい状況ではありますが、洋書の同業他社が自己破産したことにより大幅な売上増を計画しております。また日本語教材の売上についてもアメリカの子会社内に「JAPAN LANGUAGE CENTER」を設立し強化してまいります。さらに利益率の向上と売上増および営業費の抑制を図り業績の達成を見込んでおりますので連結、個別業績予想の修正は行なっておりません。

(ご参考) 21年3月期(通期)の連結・個別業績予想

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
連結業績予想	9,062	140	87	50	8円36銭
個別業績予想	8,740	125	74	43	7円19銭

(注) 上記の修正額は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上